



(題字 小黒千足 学長)

第345号

(平成5年9月号)



△ 「これからの高等教育について」と題して講演される  
文部省高等教育局 本間専門教育課長  
(平成5年9月30日(木)黒田講堂会議室)

## 目 次

## 学 内 諸 報

- ◆ 富山地区国立学校事務電算化要員養成研修  
会 ..... 3
- ◆ 第2回富山地区国立学校技術職員研修 ..... 4
- ◆ 平成5年度富山大学リカレント学習コース  
の開設 ..... 5
- ◆ 平成5年度富山大学公開講座の実施 ..... 5
- ◆ 平成5年度遼寧大学からの招へい研究者 ..... 7
- ◆ 海外渡航者 ..... 7

## 学内トピックス

- ◆ 「これからの高等教育について」の講演会  
—文部省高等教育局専門教育課長— ..... 10

## 人 事 異 動 ..... 14

## 学 事

- ◆ 平成5年度富山大学国際交流事業基金  
第2種外国人研究者の招へい事業(B)の採択 ..... 15

|                  |    |
|------------------|----|
| 関係法令 .....       | 15 |
| 学内規則 .....       | 16 |
| レクリエーション         |    |
| ◆ ソフトボール大会 ..... | 19 |
| ◆ 庭球大会 .....     | 20 |
| ◆ 釣大会 .....      | 20 |
| 諸 会 議 .....      | 20 |
| 職 員 消 息 .....    | 21 |
| 主 要 行 事 .....    | 21 |



# 学 内 諸 報

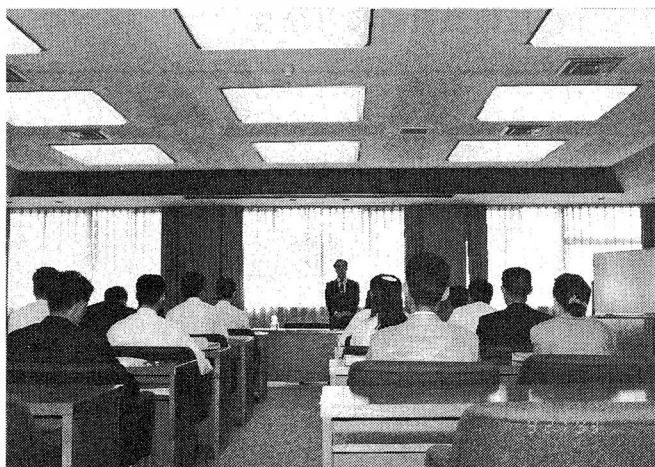
## 平成 5 年度 富山地区 国立学校事務電算化要員養成研修会 汎用システム実務研修コース

平成 5 年度 富山地区 国立学校事務電算化要員養成研修会が去る 9 月 27 日(月)から 9 月 29 日(水)まで 3 日間、本学事務局会議室及び同事務電算室において実施されました。

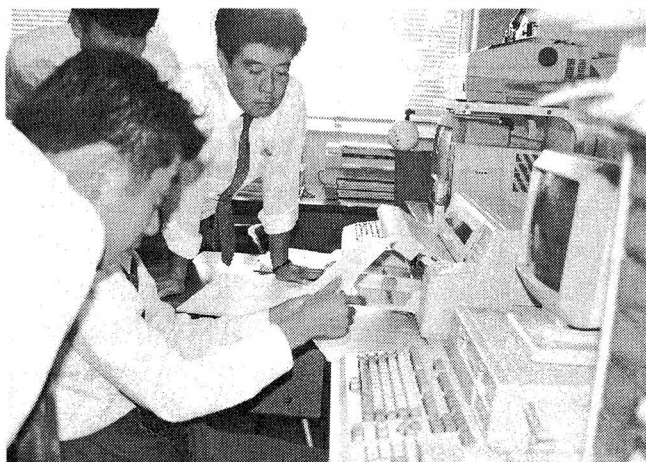
この研修会は、富山県内国立学校の事務電算化をより一層推進するため、汎用システムに関する実務研修を中心に、電算化事務の基礎的知識の習得を図ることを目的に実施されているものです。

本年度は富山大学 14 名及び富山商船高等専門学校 1 名計 15 名が出席し、「国立学校事務電算化の現状と課題について」、「電子計算機概論」等について講義を受けたのち各種の実務研修を受けました。

|               |          |       |
|---------------|----------|-------|
| 富山大学          | 庶務部 企画室  | 安部 保子 |
|               | 経理部 主計課  | 新庄 忍  |
|               | 学生部 学生課  | 大門 聡  |
|               | 〃 厚生課    | 能登 功  |
|               | 〃 入試課    | 藤城 大志 |
|               | 人文学部・理学部 | 船崎 浩之 |
|               | 〃        | 高橋 春男 |
|               | 〃        | 川成 淳也 |
| 教育学部          | 片山 好孝    |       |
| 経済学部          | 森 慶子     |       |
| 〃             | 大田 國彦    |       |
| 工学部           | 本澤 誉子    |       |
| 〃             | 田端 尚史    |       |
| 附属図書館         | 脇坂 勝人    |       |
| 富山商船高等専門学校会計課 | 高木 節子    |       |



▲ 開講式で事務電算化要員養成研修の趣旨等について説明する板谷経理課長



▲ 「予算執行管理事務システム」で実務研修に取り組む研修者

第2回（平成5年度）富山地区国立学校技術職員研修

第2回（平成5年度）富山地区国立学校技術職員研修が、去る9月27日(月)から9月29日(木)までの3日間、本学黒田講堂において実施されました。

この研修は、富山地区の国立学校に勤務する教室系技術職員に対して、その職務に必要な知識、技術を修得させるとともに、相互啓発の機会を与えることにより、職務遂行に必要な能力、資質等の向上を図ることを目的としたもので、富山地区国立学校5機関から、機械系及び化学系を専門とする技術職員24名が受講しました。

本年度は、技術発表や講演、企業見学に加え、庶務部長、人事課長も参加する「ディスカッション」の時間が企画され、熱心な討議や質疑応答が行われました。

なお、研修日程及び受講者は、次のとおりです。

受講者

(機械系 12名)

|            |          |           |       |
|------------|----------|-----------|-------|
| 富山大学       | 工学部      | 電子情報工学科   | 桶田哲郎  |
| "          | "        | 機械システム工学科 | 室谷和雄  |
| "          | "        | "         | 豊本勉   |
| "          | "        | 工場係       | 藤岡和典  |
| "          | "        | "         | 中尾良行  |
| "          | "        | "         | 高村裕之  |
| "          | "        | "         | 岩城廣光  |
| "          | 人文学部・理学部 | ガラス加工室    | 森内仁志  |
| 富山医科薬科大学   | 研究協力課    | 企画係       | 中山八州男 |
| "          | "        | "         | 中波浩二  |
| 高岡短期大学     | 学生課      | 実習係       | 酒井勲   |
| 富山工業高等専門学校 | 庶務課      | 実習係       | 小竹外治  |
| 富山商船高等専門学校 | 庶務課      | 実験実習第二係   |       |

(化学系 12名)

|          |       |           |      |
|----------|-------|-----------|------|
| 富山大学     | 工学部   | 機械システム工学科 | 西村昭治 |
| "        | "     | "         | 高瀬博文 |
| "        | "     | 物質工学科     | 中村善志 |
| "        | 教育学部  |           | 奥田都文 |
| "        | 庶務課   | 学事調査係     | 高塚清文 |
| 富山医科薬科大学 | 研究協力課 | 企画係       | 道林清美 |
| "        | "     | "         | 山本昌子 |
| "        | "     | "         | 明智洋子 |
| "        | "     | "         | 栗山政彦 |
| "        | "     | "         | 恒田則子 |
| "        | "     | "         | 網谷和子 |
| "        | "     | "         | 野手姫代 |
|          |       |           | 以上   |



△ 富山地区国立学校技術職員研修で、熱心に討議する受講者

第2回（平成5年度）富山地区国立学校技術職員研修日程表

| 9:00     | 10:00   | 11:00   | 12:00  | 13:00                                  | 14:00                     | 15:00   | 16:00            | 17:00        |
|----------|---|---|--|--|---------------------------|---|------------------|--------------|
| 9月27日(月) | 開講式<br>自己紹介<br>オリエンテーション  | 大学の現状と課題について<br>富山大学庶務部庶務課長 渡邊 昭  | 化学系<br>機械工学の基礎知識<br>〈機素及び機械力学〉<br>工学部教授 小泉邦雄<br>機械系<br>化学の基礎知識<br>〈水質に関する基礎知識〉<br>理学部教授 後藤克己 | 休憩                                     | 情報工学の基礎知識<br>工学部教授 河崎 善司郎 | 技術発表(意見交換)  | 機械系 1名<br>化学系 3名 | 懇親会<br>於職員会館 |
| 9月28日(火) | 化学系<br>機械工学の基礎知識<br>〈熱力学及び流体力学〉<br>工学部教授 岩瀬牧男<br>機械系<br>工業化学の基礎知識<br>〈工業電気化学〉<br>工学部教授 西部慶一 | 日本式物づくりの原点<br>-TQC, JIT&TPM<br>活動について-<br>榎不二越 常任顧問<br>(地域共同研究センター客員教授)<br>田中 弘 義 | 休憩   | 移動                                     | 企業見学<br>日本医薬品工業株式会社       | 移動  |                  |              |
| 9月29日(水) | 生活と科学<br>- 雪の有効利用 -<br>理学部教授 對馬 勝 年   | 医薬品開発における<br>化学と生物学<br>湧永製薬㈱医薬研究所長<br>(地域共同研究センター客員教授)<br>矢崎 明                    | 休憩   | 安全管理<br>- 化学における安全管理 -<br>工学部教授 井上 正 美 | 技術発表(意見交換)                | ディスカッション<br>- 高等教育における<br>技術職員の役割 -<br>機械系 1名<br>化学系 1名 | 閉講式              |              |

—— 富山地域リカレント教育推進事業 ——

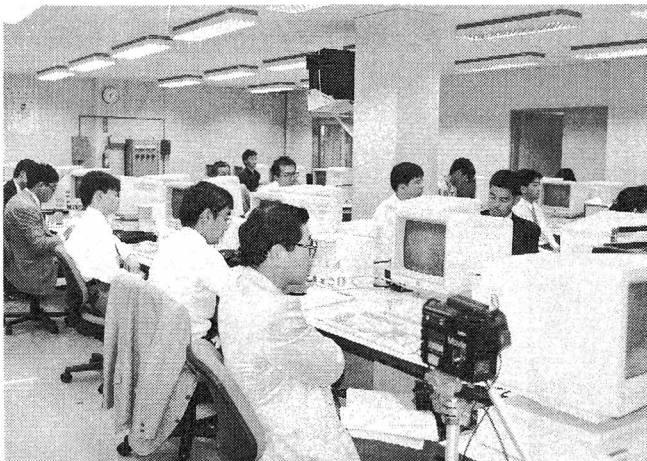
富山大学リカレント学習コースを開設し、大きな成果

リカレント教育推進の必要が叫ばれている今日、富山県民の強いニーズに応じて企画された第2回富山大学リカレント学習コース「オフィス・ワーカーのための経営科学」が、去る9月6日から9月29日までの間の10日間富山大学情報処理センターにおいて開催されました。

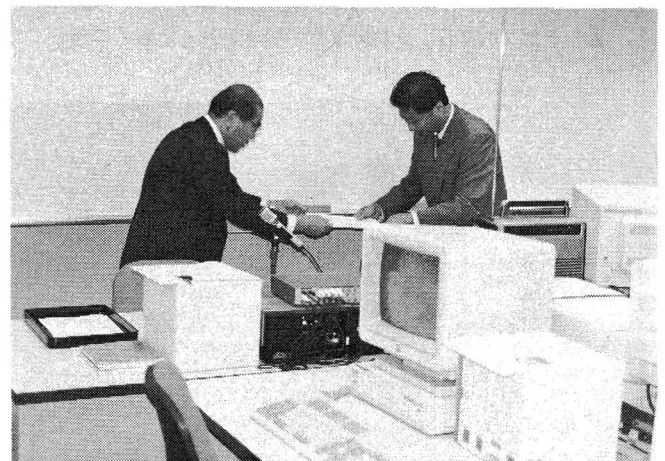
この学習コースは、文部省からの委嘱によるリカレント教育推進事業の一環として富山大学が開設したもので県内各種企業等から、企画・開発業務担当者や技術者など22名が受講しました。学習コースでは、経営計画とその手法、計量経済分析・時系列分析実習、ワークステー

ションを用いたコンピュータ・シミュレーションによる総合的意志決定、ゲーム理論、数理計画法、数理計画法の計算機実習、プロジェクト管理、プロジェクト管理計算機実習及び現在注目を浴びているファジィ理論などについて修得し、大きな成果を挙げました。

受講者からは、大学ならではの高度な内容だったとの意見や、今回全期間を夜間に実施したことに対しては、社会人を対象としたリカレント学習コースにふさわしい時間帯であるとの声が聞かれました。



△ 情報処理センターで熱心の実習を行う受講者



△ めでたく修了。山淵センター長から修了証書の授与

平成5年度富山大学公開講座を実施

平成5年度富山大学公開講座（一般講座、実技講座、スポーツ講座の計3講座5コース）がそれぞれ次のとおり実施されています。

「健康・スポーツ教室」（硬式テニス初心者コース）は7月16日（金）～7月20日（火）の5日間にわたり富山大学軟式テニスコートで、また「健康・スポーツ教室」（ジョギング・ランニングコース）が8月18日（火）～9月3日（金）の10日間、空港スポーツ緑地陸上競技場で、さらに「健康・スポーツ教室」（ゴルフコース）が8月23日（月）～8

月31日（火）の5日間、呉羽カントリークラブで、続いて「健康・スポーツ教室」（バドミントンコース）は9月21日（火）～10月8日（金）の6日間、本学第2体育館で開催され、受講者はそれぞれの講座の実技に気持ちよい汗を流してスポーツへの実感を満喫していました。

また、「ハイパーメディア体験講座—教育的可能性を探る—」が9月2日（木）～9月20日（月）の6日間、本学教育学部附属教育実践研究指導センターで実施されました。受講者はほとんどが学校の先生であり、今後の授業に役

立てたいという声が聞かれました。

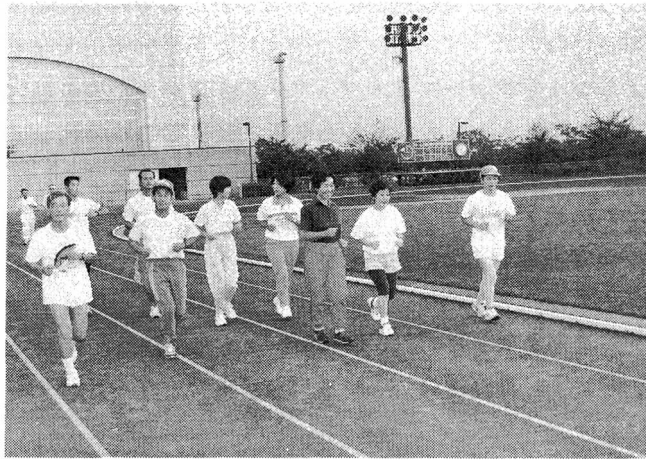
なお、所定の課程の3分の2以上を出席した受講者に対しては終了日に修了証書が渡されました。

現在、9月18日(土)～10月30日(土)の各土曜日に計7回にわたり「脳と心」が黒田講堂会議室を会場に実施中です。

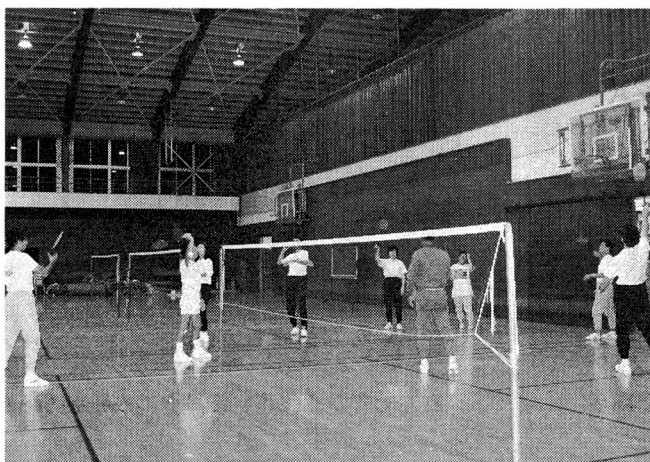
今後は「健康・スポーツ教室」(硬式テニス初級者コース)が、12月23日(木)～12月27日(月)に本学第1体育館で開催の予定で、これをもって今年度の富山大学公開講座はすべて終了します。



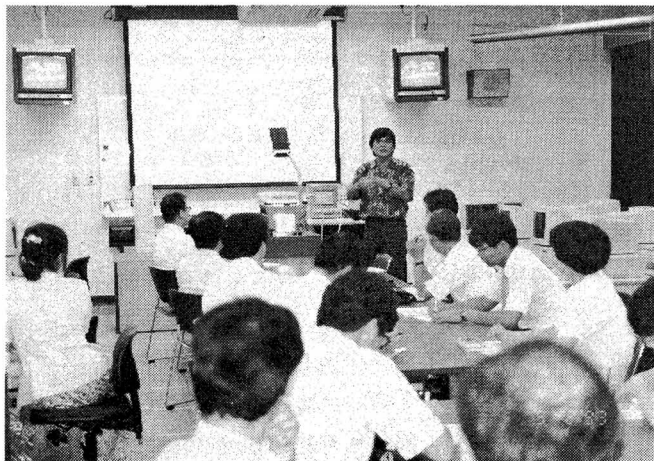
▲ テニスの初日。北村助教授の説明を熱心に聴く受講生



▲ ジョギング・ランニングの技法を山地教授に学ぶ受講生



◀ バドミントンラケットを手に福田教授の実技指導を受ける受講生



▲ ハイパーメディア体験講座  
「教育的可能性を探る」で山西教授の講義を聴く受講生



▲ 脳と心「日常生活と脳の活動」で  
神川助教授からOHPによる講義を受ける受講生

## 平成5年度遼寧大学からの招へい研究者 — 学長を表敬訪問 —

本学と遼寧大学との友好学術交流に関する協定に基づき、招へい研究者として来訪の中国遼寧大学物理系教授辛宗政氏（51才）が受入教官の松本教授（理学部長）等と共に学長を表敬訪問しました。

学長室では、辛教授を囲んで和やかな歓談が行われました。学長から、本学の現況などについて説明があり、ついで研究課題の専門分野等について、松本教授や平山教授の補足説明もあり、熱心に懇談が行われました。



▲ 学長を表敬訪問された辛宗政氏（学長室）

滞在期間 平成5年9月6日から平成5年11月30日までの予定

研究課題 大統一理論と関連する諸問題

受入教官 理学部長松本賢一教授（電子物理学担当）

## 海外渡航者

| 渡航の種類 | 所属   | 職      | 氏名    | 渡航先国                                 | 目的                             | 期間                        |
|-------|------|--------|-------|--------------------------------------|--------------------------------|---------------------------|
| 外国出張  | 経済学部 | 助教授    | 太田 雅晴 | 連合王国<br>スウェーデン<br>フィンランド<br>ドイツ、フランス | コンピュータ支援生産・物流<br>・販売総合計画に関する研究 | 5. 8. 8<br>）<br>5. 8. 31  |
|       |      | 教授     | 桂木 健次 | 大韓民国                                 | 環日本海経済交流に関する調査                 | 5. 8. 23<br>）<br>5. 8. 27 |
|       | 助教授  | 水谷内 徹也 | ”     | ”                                    | ”                              |                           |
|       | ”    | ”      | 西村 秀二 | ”                                    | ”                              | ”                         |
|       | 教授   | 中藤 康俊  | ”     | ”                                    | ”                              |                           |
|       | 工学部  | 助手     | 佐山三千雄 | アメリカ合衆国                              | c-fps/fes<br>プロトンコジーンに関する研究    | 5. 8. 24<br>）<br>6. 6. 23 |

| 渡航の種類   | 所 属                | 職    | 氏 名               | 渡 航 先 国                     | 目 的  | 期 間                        |
|---------|--------------------|------|-------------------|-----------------------------|--|----------------------------|
|         | 工 学 部              | 教 授  | 山口 信吉             | フ ラ ン ス<br>チ ェ コ            | 国際会議 CHISA '93に出席,<br>研究発表他                                    | 5. 8. 25<br>)<br>5. 9. 4   |
|         | "                  | 講 師  | 川崎 博幸             | "                           | "  | "                          |
|         | 地域共同<br>研究セン<br>ター | 助教授  | 池野 進              | カ ナ ダ                       | CIM第32回金属材料系研究<br>者・学術講演会国際シンポジ<br>ウムに出席                       | 5. 8. 26<br>)<br>5. 9. 4   |
|         | 工 学 部              | 文部技官 | 松田 健二             | "                           | "  | "                          |
|         | 人文学部               | 教 授  | 赤阪 賢              | ベ ル ギ ー<br>マ リ<br>ノ ル ウ ェ ー | フィールド調査, 情報・資料<br>収集, 研究連絡                                     | 5. 8. 27<br>)<br>5. 10. 11 |
|         | 工 学 部              | 教 授  | 宮下 和雄             | フ ラ ン ス                     | ヨーロッパディスプレイ '93<br>国際会議に出席                                     | 5. 8. 28<br>)<br>5. 9. 5   |
| 海 外 研 修 | 理 学 部              | 教 授  | 広岡 公夫             | インドネシア                      | 国際地質対比計画(IGCP)<br>355号(太平洋の海道の新第<br>三紀における進化)の国際ワ<br>ークショップに出席 | 5. 8. 1<br>)<br>5. 8. 7    |
|         | "                  | 助 手  | 水島 俊雄             | アメリカ合衆国                     | 第20回低温物理国際会議に参<br>加・発表   | 5. 8. 3<br>)<br>5. 8. 14   |
|         | "                  | 助教授  | 石川 義和             | "                           | 低温物理国際会議及び強電子<br>相関係の国際会議にて研究発<br>表並びに研究打合せ                    | 5. 8. 3<br>)<br>5. 8. 21   |
|         | 教育学部               | 教 授  | 田中 晋              | ノ ル ウ ェ ー<br>デ ン マ ー ク      | 第3回国際 Cladocera (ミ<br>ジンコ類) シンポジウム出席<br>及び資料収集                 | 5. 8. 6<br>)<br>5. 8. 16   |
|         | 人文学部               | 助教授  | ムラジアン・<br>メアリー・アン | アメリカ合衆国                     | 国際文化関係の資料収集とピ<br>デオカメラによる外国語の教<br>授方法についての研究打合せ                | 5. 8. 6<br>)<br>5. 8. 25   |
|         | 理 学 部              | 助 手  | 酒井 英男             | ミクロネシア連邦                    | ポナペ島の火山調査と遺跡の<br>電磁気探査   | 5. 8. 12<br>)<br>5. 8. 18  |
|         | "                  | 教 授  | 小島 覚              | アメリカ合衆国                     | 国際会議出席及び研究討議   | 5. 8. 14<br>)<br>5. 8. 23  |



| 渡航の種類 | 所 属   | 職   | 氏 名   | 渡 航 先 国                     | 目 的   | 期 間                       |
|-------|-------|-----|-------|-----------------------------|---|---------------------------|
|       | 教育学部  | 教 授 | 山西 潤一 | タ イ                         | テレコミュニケーションを利用したタイ国との異文化理解プロジェクトに関するシンポジウム参加                                    | 5. 8. 14<br>)<br>5. 8. 20 |
|       | ”     | 助教授 | 市川 文彦 | ”                           | ”   | ”                         |
|       | 経済学部  | 教 授 | 和合 肇  | オーストリア<br>イ タ リ ア           | International Symposium on Stetisties with Non Precise DataとISI(フィレンツェ)に出席・研究発表 | 5. 8. 15<br>)<br>5. 9. 8  |
|       | 理 学 部 | ”   | 桜井 醇児 | アメリカ合衆国                     | 強電子相関係の物理国際会議参加   | 5. 8. 15<br>)<br>5. 8. 22 |
|       | 人文学部  | 講 師 | 岸田 文隆 | 大 韓 民 国                     | 図書資料の閲覧・収集  | 5. 8. 25<br>)<br>5. 9. 5  |
|       | 教育学部  | 助教授 | 室橋 春光 | カ ナ ダ                       | 第13回国際脳波筋電図学会に出席  | 5. 8. 29<br>)<br>5. 9. 12 |
|       | 経済学部  | 教 授 | 増田 信彦 | アメリカ合衆国<br>カ ナ ダ<br>メ キ シ コ | 枯渇性資源及び再生可能資源の経済学に関する研究   | 5. 8. 30<br>)<br>6. 8. 31 |



## 学内トピックス

## 「これからの高等教育について」の講演会

文部省高等教育局専門教育課長来学

去る9月30日(休)本学黒田講堂において、文部省高等教育局専門教育課長 本間政雄氏を講師に、本学教職員を対象とした講演会が開催されました。

当日は200名を超す教職員が、「これからの高等教育について」の演題による講演を聴きました。講演内容の概要は次のとおりです。

++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++

## これからの高等教育について

本日は「これからの高等教育」ということでお話しをさせていただきます。

時間も限られていることから、早速本題に入ります。

まず、我が国の高等教育の現状を俯瞰し、次いで、高等教育を取り巻く様々な条件、あるいは高等教育自体の変化というものについてふれ、さらにそのような状況を踏まえて我が国の高等教育に求められているものというようなことで話を進めてまいりたいと思います。

最初に、我が国の高等教育の量的な規模について申し上げますと、大学、短期大学、高等専門学校、放送大学、大学・短期大学の通信制課程、さらに専修学校の専門課程、すなわち専門学校等、多様な種類の高等教育機関があります。本年4月1日現在で大学が534校、短期大学が595校、高等専門学校が62校、さらに放送大学1校と、大学・短大の通信制、それからいわゆる専門学校が2,833校あり、これらの在学学生を合計いたしますと38万3千人という数字になるわけであります。

これに対して学生を教える先生方は、本務教員だけで見ると、18万7千人であり、すなわち学生が38万人、教員が18万人という世界的に見ても巨大なシステムを形成している状況になっております。

また、大学・短期大学の進学率、これは過年度卒業生いわゆる「浪人」も含めると、40.9%であります。この数字はここ数年来38%ぐらいのところまで推移をしていた大学・短大の進学率が、今年に入り、18歳人口が急減期にさしかかったことも影響していると思いますが、40.9%という状況に到達したものであります。これに高専の

4年次、5年次の学生、さらに通信教育の正規課程の学生を加えると43.0%、さらに専門学校の学生までを加えると実に61.6%という状況になります。18才の同世代人口の6割を超える若者が様々な高等教育機関で学んでいるという状況であります。しかも、これはあくまでも全国平均であり、例えば首都圏とか関西圏とかいうようなところを見ると、地域によってはこれを上回るような同世代人口が高等教育を受けているという状況があるわけであります。こうした様々な高等教育機関を運営するための経費は、1991年度で6兆1千2百億円であります。

これは、高等教育機関を維持・運営するための直接的な経費だけです。

この他に、育英奨学の経費や今年度の予算のベースで736億円に達した科学研究費、その他、日本学術振興会で行っている主として国際交流のための経費、特別研究員経費、さらに民間から大学等に入ってくる奨学寄附金もあるわけですから。以上が支出している経費の概要であります。

次に我が国の高等教育の特徴について申し上げますと、何と言っても一番大きなものは私学が大変大きな比重を占めているということです。学生数で見ると、先程の38万3千人のうち約8割が私学に在学し、6兆1千億円の教育費のうち65%は私学が負担をしております。これは国際的な視野で見ても際立った特徴といえます。2番目の特徴は、諸外国と比べて大学院の部門が非常に脆弱であるということです。量的な指標を見るとすぐ判るわけですが、学部学生に対する大学院生の比率は人文・社会科学、理工学全部を含めた平均で5.5%ということであり、これは学部学生100人のうち5.5人しか大学院に在学して

いないという状況になるわけでありませう。この数字を諸外国と比較すると、イギリスが33.5%、フランスでは20.7%、アメリカで15.6%等と格段に低い状況になっております。もちろんアメリカを別にすれば「イギリスやフランスの高等教育は進学率が低いからそのような数字となるのだろう」との反論も返ってくるわけですが、今日、イギリスでもフランスでも高等教育の大衆化はすさまじいスピードで進んでおり、進学率は30%後半代になっているのが現実であり、今述べたような反論は当たらないと思います。また、イギリスでは、これまで大学の数は50校ぐらいたったわけですが、つい1年半程前にポリテクニクといういわゆるユニバーシティではない高等教育機関がありました。これが一挙に大学に昇格して大学の数は倍増しております。フランスについては、私は5年間程、国際機関の職員とか大使館職員として滞在し、フランスの高等教育には格段の関心を持ち、また、自分の研究テーマでもあった関係もあり、いろいろフォローアップをしてきました。同国は、資源や自然環境に恵まれ、国土の面積は日本の1.5倍ぐらいたる伝統的な農業国ではあるわけですが、やはり21世紀に向かって生き残りをかけるためには科学技術立国として進むことが大変重要だということで、これまでの伝統のある人文・社会科学あるいは理学部中心の大学制度が発達しているのに対し、弱い工学系の見直しが行われつつあるわけでありませう。しかも高等教育の進学率の上昇の必要性等もいわれており、今、高等教育の大拡張策が国を挙げて実施されている状況で、進学率が大変上がってきております。

少し話はそれますが、我が国の場合には先程の私学が大きな比重を占めているということとも関連がありますが、私学が多いということは比較的経費がかからない人文・社会科学の在籍生が多いということです。しかし、人文・社会科学では、大学院教育ということに対してあまり重点が置かれていないということもあって、学部学生に対する大学院生の比率が非常に低いということが特徴です。

次に高等教育の内的な変化であります。これは私見ですが、3つに集約されると思います。第1点目は、すさまじい勢いで進んだ高等教育の大衆化ということでありませう。これはよく言われますがエリート段階からマス段階に進み、さらに我が国の高等教育はユニバーサル高等教育の段階へと進みつつあるのではないかと考えております。18才人口、これは伝統的な高等教育のクライアント・マーケットということになるかと思いますが、昨年度が実は第2次ベビーブームの世代がピークに達した時

点であり、昨年度205万人いた18才人口が今年194万人ということですから平成12年、西暦2000年までの間にさらに50万人程減少していくという状況になっております。昨年度の子供の出生者総数は120数万人というデータが出ておりました。したがって18年後には18才人口が120万人前後で推移をするということでありませう。これに比べ高等教育機関の入学定員、収容定員の方は、「臨増分」等を含め、受け入れるキャパシティの方はどんどん増やしてきたという状況にあり、キャパシティはあまり減らずに18才人口がどんどん減ってくるということでありませう。

こういう状況全体を見渡すと大学のキャパシティに余裕が出てきて、しかも少子化傾向の進行に伴い子供の数が減り、一方、親としては経済的に余裕があることから教育への投資意欲が非常に強いわけで、さらに進学率が上がっていくのではないかと、大衆化が進んでいくと考えられるわけでありませう。

第2点目は、高等教育機関の種別の多様化ということでありませう。戦後、新制の高等教育制度、大学制度が発足した時から比べると、短期大学これは暫定的な制度で設けられたものが現在正規の制度として法律上位置付けられております。また、昭和37年度には高等専門学校制度ができ、さらに昭和51年度には専門学校制度が発足しております。また、最近では大学審の答申を受けて、専攻科を設置し学位授与機構の認定を受けると学士学位が出るというような状況もできております。いわゆる高等教育機関の種別の多様化が進んでいるわけでありませう。

富山大学にはこのたび、博士課程が工学部にできる方向で進んでおりますが、まだ博士課程の設置のめどが立っていない大学もあるわけでありませう。大学、高等教育がカバーをする領域分野あるいは範囲の多様化も大変進んできております。これは学際化とか、融合化というようなことと言われておりますが新しい分野ができてきております。

さらに、これまでは考えられなかったような分野、例えば「美容学」というようなもの、これまでは、せいぜい専門学校レベルだと考えられていたものが高等教育の中に正規に入ってきており、このような分野は他にもたくさんあるわけで、世の中が高度化するというに伴って高等教育のカバーする範囲も広がってきております。

それから高等教育のクライアントである学生についてですが、これも当然ながら多様化が進んできていて、学生のいわゆる能力レベルから始まり、高等教育進学目的とか、あるいはなぜ自分がその大学生なのかという意識の多様化が非常に進んでおります。かつては国を背負

うエリートとして必要な教養と知識・技術を身につけるんだとの意識ではぼ揃っていたわけですが、今はこのような学生はごく一部に限られていると思います。大学生の進学に関する意識調査で一番多いのが「自由な時間が持てるから」となっていますが、このような状況はかつては考えられなかったわけで、この面でも多様化しております。

第3点目の内在的な変化として私が挙げるのは、高等教育の成熟化ということと、これと表裏一体になっていると思います。硬直化ということでもあります。新制の高等教育制度が発足して約40年ほどたち制度疲労がきているということです。教育内容・方法とかあるいは高等教育機関の管理運営システムさらに学位制度、大学院の制度すべてを含めて非常にマチュアになる一方、いろいろな側面でほころびが出てきているのではないかなと思います。

これに対して高等教育を取り巻く環境の変化について申し述べたいと思います。先程述べたような人口動態、18才人口が減っているとか、少子化傾向であるとか、あるいは人口が都市に集中しているというようなことがこれからの高等教育の在り方を考えるうえで考慮に入れなくてはならない変化の第1だだと思います。第2番目が先程述べた生活水準の向上ということも高等教育を取り巻く環境の変化として大きなものではないかと思います。

第3番目に産業の構造の変化といわれる様々な変化、第1次・第2次産業の重要性が相対的に低下して、第3次産業が非常に重要になってきつつあることから、これら産業構造の変化に伴って人材ニーズも変化してきていることです。

次に外的な条件の変化についてであります。今日、高等教育に対する社会一般の意識が非常に大きく変わりつつあるのではないかと思います。かつては投資的な高等教育観がかなり支配的だった訳ですが、現在そのように考えている人は少ないと思います。大学にやっただけで出世が倍ぐらい早くなるとか、収入が倍ぐらいになるというふうに思っている方はあまりいないはずで、高等教育から投資的な効果はあまり期待していないと思います。

もう少し範囲を広げてポテンシャルなクライアントということで社会人を見てみると、これまでは高等教育に対して非常に近寄り難いというか我々には関係がないというように見ていたと思いますが、最近では生涯学習ニーズの高まりとも相まって地域住民も大学とか短大といった高等教育機関にどんどん向きつつあるということであり、いわゆる象牙の塔的な大学観から地域・社会のサー

ビス機関、文化・教養センター、技術センターとしての大学観というものへと転換が起きつつあるのではないかと思います。そして今後ますます地域や社会や産業にとって、もっと身近なセンターとしての大学に変わってほしいと、そういうニーズが高まってくるものと思います。また、さらに社会、国家的な見地から、今度は逆に高等教育というものを国家・経済の発展戦略のキーセンター、キーポイントとしての高等教育、この場合はおそらくカッコ付きの高等教育になろうと思いますが、先端分野におけるあるいは国際的な経済競争で死活的な重要性のある分野において人材育成あるいは研究活動を行ってもらいたい、そういう国の発展にとってのキーポイントとしての高等教育観というものも台頭しつつあるのではないかと思います。

ともあれ、このような内的・外的な条件あるいは要因の変化を踏まえてこれからの高等教育を考えていく必要があります。私の個人的な考えですが、高等教育行政の基本姿勢は明らかに転換しつつあると思います。これまでは保護と規制が一体となっていたわけですが、これは昭和24年に新制大学が発足した時に二百数十の大学が生まれたわけですが、この時に発足した大学は、それまでの高等教育機関や中等教育機関を寄せ集めてできた非常に足もとの弱い脆弱な高等教育機関であり、旧帝大のように長い伝統をもった高等教育機関とは明らかに異なっていたわけですが、したがってこの段階では様々な枠をはめて規制しながらこれを保護・育成をしていくというのが高等教育行政の主題となったものと思われます。途中大学紛争等でほころびがだいぶ出た時期もありましたが基本的には保護・規制ということでやってきました。これは国立の場合にはまさしく当てはまってきましたし、私学に対しても同様の側面があったと思います。それが現在、保護・規制から自由を尊重し、自由な競争を促進する方向へと変化しつつあります。これが第1番目の高等教育行政の転換であると思います。

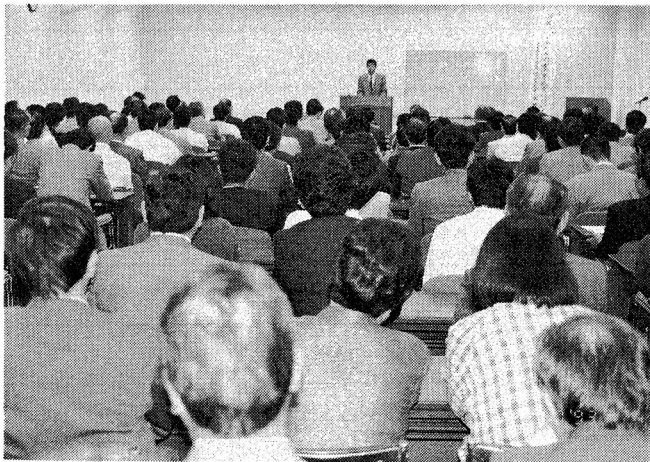
第2番目に先程述べたとおり、高等教育機関を維持するために6兆円のお金がかかりますが、病院・研究所等を含んだ国立大学98校に限ると、今年予算は2兆4千億円です。国立大学を維持・運営するだけでそれだけのお金と人がかかっているわけで、10%予算が増えるだけで2千4百億円の国費が必要となり、しかもかつてのようにはゆるいエリート教育ということで国家有為の人材を育成するというような目に見える成果があがっていたうちは社会全体が寛容であったわけですが、「不本意進学」というようなことが国立大学においてまで言

われているような状況になってくると、必ずしも世の中では是認をされないということでもあります。

文部省の政策に対して、大学の運営等に要する経費は「資金の一律配分というのが当然あるわけで当然の権利」だと思われているかもしれませんが。こういう部分はこれまでインフレに比べて増加が行われてこなかったということで実質的に目減りをしておりますからわずかな額ではありますが、何とかインフレ分ぐらいはカバーするようにしたいと文部省としても考えているわけですが、これを今後実質的に増やすということはおそらくないのではないかと考えております。むしろ重点配分ができる経費について増額を図る方向であり、この部分については大蔵省財政当局も非常に理解を示してくれております。

「よくやっているところには出しますが、やらない所には出しません」と、こういう重点配分型の予算へ変わりつつあります。先程述べた科研費というのはまさしく、この方針を貫いた仕組みであり、十分な研究をやっていない人にお金が出るということはありません。こういういわばメリットシステムに基づいてお金を配る部分が増えています。高度化推進特別経費とか大学院最先端設備費とか、あるいは来年度も多数概算要求している理工系のハイテク教育設備費等については、重点配分の部分を強調して要求しております。私学の補助金もいわゆる学生の人数、教員の人数頭割りの部分というのはずっと据え置きになっていて、国際化とか社会人の再教育とか情報化とか新しい試みをやっているところにはどんどんプラスアルファで配っていくと、こういう傾向は今後ますます強くなると思われます。

それから第3番目の高等教育行政の転換ですが、横並



△ 「これからの高等教育について」と題して文部省高等教育局本間専門教育課長の講演を熱心に聴く教職員（黒田講堂会議室）

びから多様化、個性化促進へと転換することになると思われます。もう「ミニ東大」は結構ですということで、行財政事情もきびしいおりでもあり、やる以上は多様化、個性化、他でやっていないことをやってくださいということを事あるごとに申し上げている次第です。

こういう3つの高等教育行政の転換があるわけで、大きなフレームワークの中で各高等教育機関としてはこの自由化されたフレームワーク、具体的に言う大綱化・簡素化された大学設置基準・短大設置基準・高専設置基準ということになろうかと思えます。フレームワークの中でしかも18才人口が急減期に入っているという状況の中でいかに個性的で質の高い教育を構築していくのかと、これが第1の課題であると思えます。富山大学の場合には既に結論が出て、その方向で動いていると思えますが、個性的な質の高い教育を目指さないこれまで述べたような多様な価値観を持った学生は来てくれないということだと思いますし、第2番目としては先程から述べている多様化・高度化する人材ニーズに富山大学としていかに対応していくのかと、全てのことができるわけではないので、どこを自分たちは重点的にやっていくのかということになるわけです。さらに、高まる生涯学習ニーズにいかに対応していくかということです。地域社会から浮き上がった高等教育の存在はあり得ないわけであって、生涯学習ニーズ、社会人再教育ニーズというものに対していかに応えていくか、また、あらゆる面での高度化・大型化・複雑化しつつある研究機能をどのように位置付けていくのかと、これは大変大事な問題だと思います。

さらに地域の文化・技術センターとしての期待にどう応えていくのかということがこれからの高等教育を考えるうえでの質問ではないかと思えます。どの大学がどのような方向を目指すべきかというようなことは言う立場にありませんし、文部省としてもそのようなことを言うわけではないわけで、今言ったような質問を我々としては新しい構想や試みが大学として出てきた際に、そのために必要な、人がいるとか、お金があるとか言った場合に今言ったような観点を質問して納得の得られる回答があれば後押しをすることになると思えます。



# 人 事 異 動

| 異動区分  | 発令年月日    | 氏 名    | 異 動 前 の 所 属 官 職             | 異 動 内 容                       |
|-------|----------|--------|-----------------------------|-------------------------------|
| 採 用   | 5. 9. 6  | 林 敏和   |                             | 事務補佐員（附属図書館）                  |
|       | ”        | 中村 繁之  |                             | ” （ ” ）                       |
|       | ”        | 高越 義一  |                             | ” （ ” ）                       |
|       | ”        | 杉森真希子  |                             | ” （ ” ）                       |
|       | ”        | 山田 智恵  |                             | ” （ ” ）                       |
|       | ”        | 松岡 弘二  |                             | ” （ ” ）                       |
|       | 5. 10. 1 | 園田 高章  |                             | 教務補佐員（工学部）                    |
| 転 任   | 5. 10. 1 | 臺 祐里子  | 文部事務官<br>（石川工業高等専門学校会計課出納係） | 文部事務官（教育学部）                   |
|       | ”        | 釜谷美貴子  | 文部事務官（庶務部庶務課）               | 文部事務官<br>（富山医科薬科大学教務部研究協力課）   |
| 配 置 換 | 5. 10. 1 | 長崎 宏美  | 文部事務官（教育学部）                 | 文部事務官（庶務部庶務課）                 |
|       | ”        | 山ノ下久美子 | 事務補佐員（庶務部企画室）               | 事務補佐員（学生課）                    |
| 退 職   | 5. 9. 19 | 山田 智恵  | 事務補佐員（附属図書館）                | 平成5年9月18日限り退職した               |
|       | ”        | 松岡 弘二  | ” （ ” ）                     | ”                             |
| 辞 職   | 5. 9. 15 | 竹山 美幸  | ” （庶務部企画室）                  | 辞職を承認する                       |
| 昇 任   | 5. 10. 1 | 木下 喬   | 助教授（人文学部）                   | 教 授（人文学部）                     |
|       | ”        | 小川 洋通  | ” （ ” ）                     | ” （ ” ）                       |
|       | ”        | 小助川貞次  | 助 手（北海道大学文学部）               | 助教授（ ” ）                      |
|       | ”        | 小倉 利丸  | 助教授（経済学部）                   | 教 授（経済学部）                     |
|       | ”        | 水谷内徹也  | ” （ ” ）                     | ” （ ” ）                       |
|       | ”        | 川本 恵一  | 助 手（広島大学医学部）                | 助教授（理学部）                      |
|       | ”        | 奥井 健一  | 講 師（工学部）                    | 助教授（工学部）                      |
| 転 任   | 5. 10. 1 | 釘貫 亨   | 助教授（人文学部）                   | 助教授（名古屋大学文学部）                 |
|       | ”        | 佐藤 清人  | ” （ ” ）                     | ” （山形大学人文学部）                  |
|       | ”        | 武蔵 博文  | 教 諭（筑波大学附属大塚養護学校）           | 助教授（教育学部）                     |
|       | ”        | 岩崎 政明  | 助教授（経済学部）                   | 助教授（横浜国立大学経済学部）               |
|       | ”        | 堀田 裕弘  | 講 師<br>（石川工業高等専門学校電気工学科）    | 講 師（工学部）                      |
| 臨時的任用 | 5. 9. 29 | 椎名由里子  |                             | 教 諭<br>（教育学部附属中学校）（～5. 11. 9） |

学

事

## 平成5年度富山大学国際交流事業基金

○ 第2種外国人研究者の招へい事業(B)の採択

| 招へい研究者     |                                | 招へい目的                        | 招へい期間                    | 申請教官 |       |     |
|------------|--------------------------------|------------------------------|--------------------------|------|-------|-----|
| 氏名         | 所属・職名                          | 研究テーマ                        |                          | 部局   | 氏名    | 職名  |
| ウタ・ホーン     | デュイスブルグ<br>大学・講師<br>(ドイツ連邦共和国) | 共同研究, 講演                     | 5.12.6～5.12.10<br>(5日間)  | 人文学部 | 水内 俊雄 | 助教授 |
|            |                                | 都市再開発・修景事業を通じた日本ドイツの比較都市計画研究 |                          |      |       |     |
| ピーター・K・チェオ | コネチカット<br>大学・教授<br>(アメリカ合衆国)   | 学術討論, 研究指導, 講演               | 6.2.8～6.2.12<br>(5日間)    | 理学部  | 高木光司郎 | 教授  |
|            |                                | 光子工学及びレーザー分光学                |                          |      |       |     |
| 江 英彦       | 中国科学院化学研<br>究所・教授<br>(中華人民共和国) | 学術討論, 講演                     | 5.12.14～5.12.16<br>(3日間) | 工学部  | 島崎長一郎 | 教授  |
|            |                                | 機能性高分子の合成と応用                 |                          |      |       |     |

## 関 係 法 令

## (省 令)

- 建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則の一部を改正する省令(厚生38) 9. 8
- 出納官吏事務規程等の一部を改正する省令(大蔵83) 9. 10
- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(文部30) 9. 30
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令(文部31) 9. 30

## (規 則)

- 人事院規則17-0(管理職員等の範囲)の一部を改正する人事院規則(人事院17-0-31) 9. 30

## (告 示)

- 平成6年度科学研究費補助金の各種目の計画調書の提出期間等を定める件(文部113) 9. 3

# 学 内 規 則

## 富山大学文書処理規則の一部改正

### 富山大学文書処理規則の改正理由

平成 5 年 3 月 18 日 付 文 総 審 第 151 号 文 部 省 大 臣 官 房 総 務 課 長 通 知 「 行 政 文 書 の 用 紙 規 格 の A 判 化 実 施 に つ い て 」 に 基 づ き ， 本 学 原 議 書 用 紙 を A 判 規 格 に す る こ と に 伴 い ， 様 式 を 変 更 す る た め ， 所 要 事 項 を 改 め る 。

富山大学文書処理規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成 5 年 9 月 17 日

富山大学長 小黒 千足

### 富山大学文書処理規則の一部を改正する規則

### 附 則

富山大学文書処理規則（昭和 63 年 3 月 31 日 制 定 ） の 一 部 を 次 の よ う に 改 正 す る 。

この規則は，平成 5 年 10 月 1 日 から 施 行 す る 。

様式第 3 号を次のように改める。（別添のとおり）

様式第 3 号（第 11 条 関 係）

至急文書  
付せん  
箇所  
別添

### 富山大学原議書 保存期間

|   |                      |              |                               |
|---|----------------------|--------------|-------------------------------|
| 富大 第 号  | 文書種別                 | 文書取扱：普通 秘 親展 |                               |
| 起案：平成 年 月 日   | 発送 何 供開 部内通知         | 浄書           | 照合                            |
| 決裁：平成 年 月 日   | 発送種別                 | 発送           | 文書係長                          |
| 施行：平成 年 月 日   | 普通 書留 速達 電信<br>小包 使送 | 完結：平成 年 月 日  |                               |
| 件 名   |                      |              |                               |
| 受 信 者   |                      | 発 信 者        |                               |
| 先方の文書年月日：平成 年 月 日                                   |                      | 先方の文書記号番号： 号 |                               |
| 上記のことについて 別紙 裏面 のように びよいか、伺います。<br>(別紙 枚；別表 枚) します。 |                      |              |                               |
| ( 決 裁 欄 )   |                      |              | 起案者<br>起案部・課・室<br>係名<br>電 ( ) |
| 合 議   |                      |              |                               |
| 備 考   |                      |              |                               |



## 富山大学学科長に関する規則の制定

### 富山大学学科長に関する規則の制定理由

国立学校設置法施行規則（昭和 39 年文部省令第 11 号）が改正され、文部大臣が指定する学科に学科長を置くことができることとなったことに伴い、所要事項を定める。

富山大学学科長に関する規則を次のとおり制定する。

平成 5 年 9 月 17 日

富山大学長 小黒 千足

### 富山大学学科長に関する規則

（趣 旨）

第 1 条 この規則は、国立学校設置法施行規則（昭和 39 年文部省令第 11 号）第 7 条第 2 項に定める学科長に關し必要な事項を定めるものとする。

（学 科）

第 2 条 学科長を置く学科は、文部大臣の指定するところによる。

（学科長）

第 3 条 学科長は、当該学科の専任教授をもって充てる。

（職 務）

第 4 条 学科長は、当該学科の運営に關し、総括し、調

整する。

（選 考）

第 5 条 学科長の選考は、当該学科が推薦した候補者につき、当該学部教授会の議を経て、学長が行う。

（任 期）

第 6 条 学科長の任期は、1 年とし、再任を妨げない。

附 則

1 この規則は、平成 5 年 10 月 1 日から施行する。

2 この規則施行後、第 5 条の規定により最初に選考された学科長の任期は、第 6 条の規定にかかわらず、平成 6 年 3 月 31 日までとする。

## 富山大学技術部委員会内規の制定

### 富山大学技術部委員会内規の制定理由

技術部の円滑な運営を図るために置く技術部委員会に關して、必要な事項を定める。

### 富山大学技術部委員会内規

〔平成 5 年 9 月 6 日学長決裁〕

（趣 旨）

第 1 条 富山大学技術職員の組織等に関する要項第 7 条第 2 項の規定に基づき、富山大学技術部委員会（以下「委員会」という。）に關し、必要な事項を定める。

（組 織）

第 2 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 技術部長

(2) 教育学部長から推薦された教官 1 人

(3) 理学部長から推薦された教官 1 人

(4) 工学部長から推薦された教官 4 人

(5) 庶務部長

(6) 経理部長

(7) 工学部事務長

(8) 技術長

(9) 各技術班の長

（任 期）

第 3 条 前条第 2 号から第 4 号までに掲げる委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(運 営)

第4条 委員会に、委員長を置き、技術部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(庶 務)

第5条 委員会の庶務は、庶務部人事課において処理する。

(雑 則)

第6条 この内規に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会において定める。

附 則

この内規は、平成5年10月1日から施行する。

## 富山大学技術職員の組織等に関する要項の制定

### 富山大学技術職員の組織等に関する要項の制定理由

本学のいわゆる教室系技術職員に関し、全学を単位として組織し、能力及び資質等の向上を図るとともに教育研究の支援体制を充実するため、必要な事項を定める。

### 富山大学技術職員の組織等に関する要項

[平成5年9月6日学長決裁]

(趣 旨)

第1条 この要項は、富山大学（以下「本学」という。）のいわゆる教室系技術職員（以下「技術職員」という。）に関し、その職務が教育・研究の進展に伴い、高度化、専門化してきていることに鑑み、その能力及び資質等の向上を図り、もって教育研究支援体制を充実するため、必要な事項を定める。

(技術官及び技術官補)

第2条 技術職員の職務が特別な知識及び技術を必要とし、教官に協力して行う各種研究、実験等の教育・研究の基盤を支える極めて重要な専門的業務に従事していることに鑑み、その職務について、十分な知識、経験を有すると認められる者に、別に定める基準により、技術官の名称を付与するものとする。

2 前項以外の技術職員には、技術官補の名称を付与するものとする。

(組織等)

第3条 教育・研究の進展に伴って技術職員の職務が高度化、専門化してきていることに鑑み、本学に、その技術に関する専門的業務を円滑かつ効率的に処理するため、技術部を置く。

2 技術部に、第一から第四までの技術班を置き、各班の構成部局等は次の表に掲げるとおりとする。

| 班     | 構成部局等  |
|-------|--|
| 第一技術班 | 教育学部<br>理 学 部<br>水素同位体機能研究センター<br>放射性同位元素総合実験室<br>情報処理センター |
| 第二技術班 | 工 学 部 電子情報工学科<br>化学生物工学科                                   |
| 第三技術班 | 工 学 部 機械システム工学科<br>物質工学科                                   |
| 第四技術班 | 工 学 部 実習工場   |

第4条 技術部に技術部長を置く。

2 技術部長は、技術部を統括する。

3 技術部長は、本学工学部の専任教授のうちから工学部長の推薦に基づき、学長が任命する。

4 前項に定める技術部長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

第5条 技術部に職として、技術長、技術班長、技術主任、前任技術専門職員及び技術専門職員を置き、技術官をもって充てる。

(1) 技術長は、各班の業務を総括整理し、技術部に所属する技術職員に対し、技術的な指導・育成等を行う。

(2) 技術班長は、班の業務を整理し、班に所属する技術職員に対し、技術的な指導・育成等を行う。

(3) 技術主任は、担当の業務を処理し、担当する業務

に従事する技術職員に対し、技術的な指導・育成等を行う。

(4) 前任技術専門職員は、特定の分野について極めて高度の専門的技術又は経験を必要とする業務を直接処理するとともに、必要に応じ、その専門的事項に関し、技術的な指導・助言等を行う。

(5) 技術専門職員は、特定の分野について高度の専門的技術又は経験を必要とする業務を直接処理するとともに、必要に応じ、その専門的事項に関し、技術的な指導・助言等を行う。

(研 修)

第6条 技術職員に、その職務の遂行に必要な知識及び技術等を習得させ、能力及び資質等の向上を図るため、研修を実施する。

2 研修の内容については、別に定める。

(技術部委員会)

第7条 技術部の円滑な運営を図るため、技術部委員会を置く。

2 技術部委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(事務処理)

第8条 技術部に係る事務は、工学部事務部の協力を得て、庶務部人事課において処理する。

附 則

(実施期日)

1 この要項は、平成5年10月1日から実施する。

(経過措置)

2 この要項中第2条の規定の適用については、当分の間、「技術官」の名称は行政職俸給表(-)2級以上の者に、「技術官補」の名称は行政職俸給表(-)1級の者に付与するものとする。

## 学 内 レ ク リ エ ー シ ョ ン

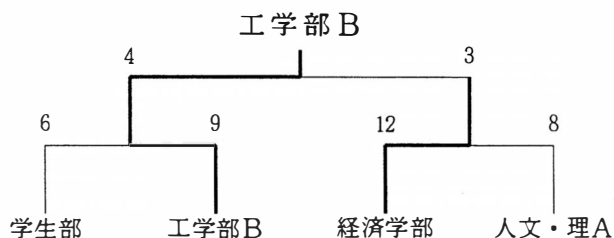
### 〈ソフトボール大会〉

本学レクリエーション委員会体育部会ソフトボール班と、文部省共済組合富山大学支部との共催による平成5年度部局対抗ソフトボール大会が、平成5年6月21日から平成5年9月16日の間、本学グラウンドで行われ、熱戦が繰りひろげられ、工学部Bチームが優勝しました。成績は次のとおり。

優 勝 工学部Bチーム

準優勝 経済学部チーム

(決勝トーナメント)



▲ ソフトボール大会における予選リーグ戦の一コマ

## 〈 庭 球 大 会 〉

本学レクリエーション委員会体育部会庭球班と、文部省共済組合富山大学支部との共催による平成5年度学内庭球大会が、去る9月11日(土)本学軟式庭球場において実施されました。

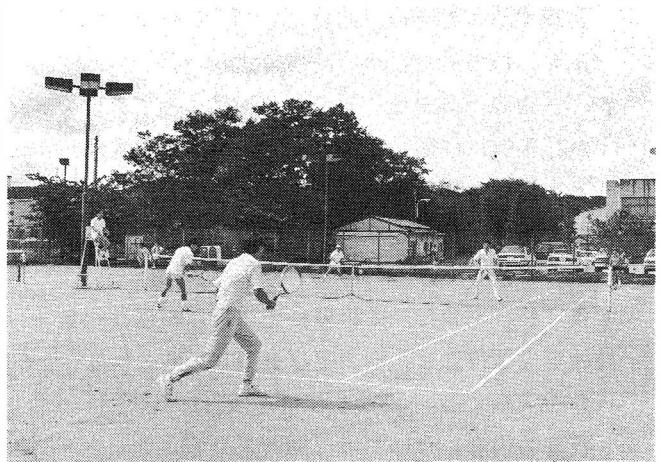
本大会は、約60名の参加者を得て、男子8チーム(部局対抗のダブルスによる団体戦)及び女子4チーム(ダブルスによる対抗戦)により行われました。成績は次のとおり。

### ○男子(団体戦)

優 勝 人文学部チーム  
準優勝 本部・附属図書館チーム

### ○女子(対抗戦)

優 勝 長崎(教)・高瀬(施)  
準優勝 三浦(教)・湯野(人)



▲ 庭球大会における男子ダブルス(団体)戦の一コマ

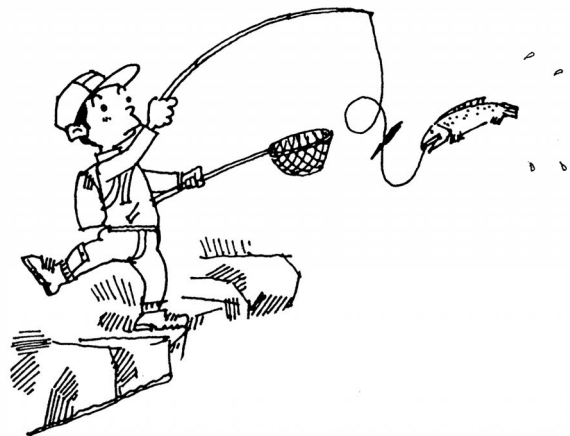
## 〈 釣 大 会 〉

本学レクリエーション委員会倶楽部会釣班と、文部省共済組合富山大学支部との共催による平成5年度学内釣大会が、去る9月25日(土)午後1時から富山新湊東防波堤において実施されました。

大会は、15名の参加者により行われました。成績は次のとおり。

### 入賞者

一 位 森 田 憲 治(経理部)  
二 位 角 井 與志雄(庶務部)  
三 位 竹 下 義 美(教育学部)



諸

会

議

平成5年度第3回事務協議会(8月4日)

(議 題)

当面の諸課題について

## 職 員 消 息

## 《新任者住所》

人文学部

事務補佐員 石田裕子

(物理学教室)

教育学部附属養護学校

養護教諭 島田公子

## 《住所変更》

教育学部附属幼稚園

教諭 中田良子

教諭 市川明美

経済学部

教授 長谷川 隆

(民法)

## 主 要 行 事

## 本 部

- 8月2日 富山大学説明会  
 3日 第1回自己点検評価委員会教育活動専門委員会  
 第1回自己点検評価委員会管理運営専門委員会  
 施設整備委員会検討会  
 4日 第3回事務協議会  
 5日 学長杯ソフトボール大会開会式  
 18日 富山大学公開講座「ジョギング・ランニング  
 コース」(9月3日まで)  
 23~31日 富山大学公開講座「ゴルフコース」  
 24日 北陸地区会計事務担当者連絡協議会(於:福  
 井大学)  
 富山大学説明会(於:愛鉄連厚生年金基金会  
 館)

- 24~26日 第2回(平成5年度)北陸地区国立学校技術  
 職員(教室系)研修(於:金沢大学及び辰口  
 研修センター)  
 25日 富山大学温窓会役員会  
 施設整備委員会検討会  
 26日 平成6年度大学入学者選抜大学入試センター  
 試験入試担当者連絡協議会(第1回)(於:  
 三重大学)  
 31日 平成5年度第37回中部地区学生補導厚生研究  
 会東海・北陸地区研修会(於:愛知県労働者  
 研修センター)

## 人 文 学 部

- 8月4日 係長会議  
 20日 係長会議

## 教 育 学 部

- 8月2~12日 平成5年度学校図書館司書教諭講習  
 18~20日 平成5年度国立大学附属学校栄養士研究会  
 (於：国立教育会館)  
 30日 附属小学校第2学期始業式  
 31日 附属中学校第2学期始業式

## 理 学 部

- 8月4日 委員会委員選出等検討委員会(仮称)

## 工 学 部

- 8月2日 学部説明会  
 3日 学部学生生活委員会  
 学部紀要委員会  
 5日 係長連絡会  
 20日 第20回北陸三大学工学部スポーツ交換会(於：  
 福井大学)  
 25日 学部図書委員会

## 附 属 図 書 館

- 8月6日 係長連絡会  
 13日 図書館専用電子計算機更新に係る第1回技術  
 審査  
 18日 図書館専用電子計算機更新に係る第2回技術  
 審査  
 23日 図書館専用電子計算機更新に係る第3回技術  
 審査  
 24日 図書館専用電子計算機更新に係る第4回技術  
 審査  
 25日 図書館専用電子計算機更新に係る第5回技術  
 審査

## 地域共同研究センター

- 8月3日 大学開放事業に関する専門委員会  
 12日 地域共同研究センター運営委員会  
 19~20日 第5回国立大学共同研究センター専任教員懇  
 談会(於：長崎大学)  
 23~27日 産学研究実践講座(粉体工学コース)

編 集 富山大学庶務部庶務課  
 富山市五福3190  
 印刷所 あけぼの企画株式会社  
 富山市住吉町1丁目5-18  
 電話(24)1755(代)